

マツダ、自動車リサイクル法に基づく2017年度再資源化などの実績を公表

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、2005年1月1日にスタートした自動車リサイクル法に基づき、使用済み自動車のシュレッダーダスト(ASR:Automobile Shredder Residue)、エアバッグ類、フロン類の特定3品目について、2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日)の再資源化などの実績を公表します。

マツダは、お客さまに預託していただいたリサイクル料金によって、全国で特定3品目の再資源化を行っており、2017年度はASR引取りが台数で15万台、重量で約29,300トン、うち約28,800トンを再資源化しました。ASRの再資源化率は前年実績を上回り98.2%となり、2015年度以降の法定基準70%を2008年度から継続して達成、車両のリサイクル実効率^{*1}で99%を超えています。

さらにエアバッグ類は、13万台(50万個)を引取り、回収処理または車上作動処理^{*2}により再資源化を行いました。エアバッグ類の再資源化率は93.9%と法定基準85%を上回りました。また、フロン類についても14万台を適正に処理しました。

特定3品目の再資源化などに要した費用の総額は14.7億円で、資金管理人から払い渡しを受けた預託金の総額は17.1億円、全体収支は2.4億円の黒字となりました。このうち2.1億円(2016年度収支黒字相当額)を自動車のリサイクルの高度化等に関する学術的・実践的調査・研究、並びに資源の有効活用や環境保護等に関する研究等への助成及び事業を行う、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団^{*3}に拠出しました。また、2012年導入の新型車より最新の実績を反映したリサイクル料金の見直しを実施しています。

マツダは今後も、中長期で全体収支のバランスが取れるよう再資源化事業を推し進め、限りある資源を有効活用する循環型社会の構築に向けた取り組みを継続します。

■ 2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日)再資源化などの実績状況

1. 基準の遵守状況^{*4}

項目	2017年度	2016年度	法定基準値
シュレッダーダスト(ASR)再資源化率 ^{*5}	98.2%	97.9%	2015年度以降 70%以上
エアバッグ類再資源化率 ^{*6}	93.9%	93.6%	85%以上

*1 使用済み自動車のリサイクル率のことであり、解体・シュレッダー工程で再資源化された比率約83%(’03/5合同審議会資料より引用)に、残りのASR率17%とASRリサイクル率98.2%を乗算したものを加算して算出します。

*2 車上にエアバッグ類を取り付けたままの状態で開催し、リサイクルする方法です。

*3 公益財団法人自動車リサイクル高度化財団、並びに同財団の取り組みについては下記ホームページをご覧ください。
<https://j-far.or.jp/>

*4 自動車リサイクル法第25条第2項に基づきます。

*5 ASR再資源化率 =
$$\frac{\left(\frac{\text{リサイクル施設投入ASR総重量}}{\text{リサイクル施設排出残さ総重量}} \right) + \left(\frac{\text{委託全部利用投入ASR相当総重量}}{\text{委託全部利用排出残さ総重量}} \right)}{\text{引取りASR総重量} + \text{委託全部利用引渡しASR相当総重量}}$$

*6 エアバッグ類再資源化率 =
$$\frac{\text{引き取ったガス発生器のうち再資源化した重量}}{\text{引き取ったガス発生器の総重量}}$$

2. 再資源化等の状況

品目		項目	2017 年度 実績	2016 年度 実績(参考)
シュレッダー ダスト (ASR)	引取り量	引取り ASR 総重量	27,594 t	26,370 t
		委託全部利用 ^{*7}	1,688 t	1,774 t
		引渡し ASR 相当総重量		
		合計	29,282 t	28,144 t
	再資源化 重量	(1)リサイクル施設 ^{*8} 投入 ASR 総重量	27,594 t	26,370 t
		(2)リサイクル施設排出残さ総重量 ^{*9}	466 t	528 t
		再資源化重量[(1)-(2)]	27,127 t	25,842 t
		(3)委託全部利用投入 ASR 相当総重量	1,688 t	1,774 t
		(4)委託全部利用排出残さ総重量 ^{*10}	56 t	61 t
		再資源化重量[(3)-(4)]	1,632 t	1,713 t
	合計[(1)-(2)]+[(3)-(4)]	28,760 t	27,555 t	
	引取り台数	引取り使用済自動車台数	140,129 台	134,603 台
委託全部利用引渡し解体自動車台数		8,441 台	8,873 台	
合計		148,570 台	143,476 台	
エアバッグ類	再資源化 重量	引き取ったガス発生器の総重量	33,626 kg	30,111 kg
		再資源化重量	31,583 kg	28,185 kg
	引取り量	回収個数	54,336 個	47,701 個
		作動個数	446,957 個	400,482 個
		合計	501,293 個	448,183 個
	引取り台数	回収台数	14,906 台	13,400 台
		作動台数	110,025 台	100,064 台
		一部回収／一部作動台数	3,159 台	3,933 台
		合計	128,090 台	117,397 台
	フロン類	引取り量	CFC ^{*11} の引取り量	170kg
HFC ^{*12} の引取り量			33,971kg	32,549 kg
合計			34,142kg	32,766 kg
引取り台数		CFC の引取り台数	1,724 台	1,382 台
		HFC の引取り台数	137,985 台	126,682 台
		合計	139,709 台	128,064 台

注 1) 合計欄等の数値は、各項目の四捨五入の関係上、一致しない場合があります。

*7 自動車メーカーからの委託により実施される、ASR を生じさせない方法で(電炉、転炉などへの投入により)解体自動車再資源化処理する方法のことを示します。またこれを行う事業者は委託全部利用者です。

*8 自動車リサイクル法第 28 条で主務大臣の認定を取得した ASR 指定引取り場所のうち、施行規則第 26 条に定める基準に適合した施設(「基準適合施設」)を示します。

*9 ASR をリサイクルすることによって生じるスラグや飛灰などのうち、販売や処理されないで施設に残ったもしくは埋立処分された廃棄物の総重量です。

*10 委託全部利用者で鉄鋼製品を生産する際に生じるスラグや飛灰のうち、販売や処理されないで施設に残ったもしくは埋立処分された廃棄物の総重量です。

*11 chlorofluorocarbon の略。クロロフルオロカーボン。

*12 hydrofluorocarbon の略。ハイドロフルオロカーボン。

3. 払渡しを受けた預託金の総額および再資源化などに要した費用の総額

(単位:円)

項目		合計	内フロン類	内エアバッグ類	内 ASR
収入	払渡しを受けた預託金⑧	1,714,599,985	321,893,857	331,672,948	1,061,033,180
	内預託金利分	201,433,585		—	
支出	再資源化等に要した費用⑨	1,472,141,715	243,825,552	280,121,611	948,194,552
	内 社内費用 (人件費)	25,400,248		—	
	内 社内費用 (システム費)	6,427,322		—	
収支(税引前) 【⑩=⑧-⑨】		242,458,270		—	

【参考 1】2017 年度リサイクル収支から抛出の費用

公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団 *3 への抛出 ⑩	212,169,990	—
抛出後の収支 【⑫=⑩-⑪】	30,288,280	—

*3 公益社団法人自動車リサイクル高度化財団については下記ホームページをご覧ください。

<http://j-far.or.jp/>

【参考 2】再資源化等の運営に要したメーカーとしてのリサイクル全体収支(2017 年度)

支出	自動車リサイクル促進センターの運 営関連費用⑬	100,405,672	—
	ASR リサイクル関連費用⑭	20,554,251	—
合計【⑮=⑬+⑭】		120,959,923	—
メーカーとしてのリサイクル全体収支 【⑯=⑫-⑮】		-90,671,643	—

マツダのリサイクル法への取り組み内容について、詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.mazda.com/ja/csr/recycle/>

以 上